

## 4～7月 訪問支援等の状況

今年度も、年度当初から多くの学校等にお声がけいただき、訪問支援等のセンター的機能の活用していただいています。今後とも本校の相談支援活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

### 【① 教育相談】

電話相談は、個別の教育支援計画の取扱いに関する相談や、児童生徒の就学先の検討に関する相談がありました。個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成について悩んでいる先生が少なくありません。「どう書いたらいい？」と気になることがあれば、遠慮なくお問い合わせください。

① 教育相談	電話相談	5回
	来校相談	0回
	学校見学	6件
	体験学習	0回
② 訪問支援	小学校	6回
	中学校	2回
	幼稚園・保育所	2回
	高等学校	1回
③外部専門家派遣		4回
④研修支援		3回

(令和4年度4月～7月)



学校見学は、7月に行った各学部の見学会にご参加いただきました。今年度も、感染症対策としてオープンスクール形式での開催は見送りました。しかし、就学に関する情報収集以外にも見学の希望をいただいています。「授業や教材を見学して指導に生かしたい」などの見学希望がありましたら、ご連絡ください。

### 【② 訪問支援】

6月までは、感染症が沈静化していたこともあり、比較的多くの学校に訪問しました。7月に入ってから、感染症の関係で中止するケースが複数ありました。急きよのキャンセルや、翌月以降への振り替え、場合によっては電話やオンラインによる相談への振り替えなどできる限りの対応をしていきます。

#### 《こんな相談がありました》

**質問** 気分によって授業を受けられる時と受けられない時がある。理由は言いたくないとのこと。どうすれば授業を受けられるようになるか？



**回答** 観察時は、比較的よく授業に参加していました。意欲的に筆記しているものの、文字は乱れがちでした。小学校中学年ですが、アルファベットでは鏡文字がみられました。発達検査の経験はないものの、他のお子さんよりも書字による負荷が高くなりやすい可能性がみられました。担任の先生とも上記の見立てが一致しました。そのため、学習内容によってはプリントを活用して書字の負荷を減らすこと、注目するポイントを絞ること、耳からの情報で説明を補い理解することなど、本人の学習スタイルの確立に向けて提案しました。

### 【③ 外部専門家活用】

上記の②訪問支援の件数のうち、外部専門家を帯同したケースをカウントしています。例年に比べてST（言語聴覚士）の活用が増えています。

#### 《こんな相談がありました》

**質問** 言葉が出始めたダウン症のお子さんについて、口の動かし方や構音の指導について知りたい。指しゃぶりにについても気になっています。

**回答** STからは、園での全体指導の観察では、手遊びなど手指を使う活動が多く、有効との話がありました。また、拍と音声の一致（例：手拍子を取りながら「お・し・ま・い」と言う）や簡単なジェスチャー（例：頬に手を添えて「おいしい」と伝える）があると、さらに言葉を身に付けやすくなる、観察からはストレスによる指しゃぶりではなさそうなので、手に何かを持たせるなどして様子を見たい、などの助言がありました。

### 【④ 研修支援】

訪問支援と同様に、6月に3件実施した後、7～8月に予定されていた研修が感染症対応により3件中止になりました。下記のようなテーマを依頼されたうえで、「LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム」を使ったワークを取り入れるなどして、指導に生かせる研修になることを目指しています。

#### 《研修テーマの一例》

- ・多様性を認め合い、豊かな関わりにつなげる取り組みについて
- ・人との距離の取り方、思春期の性に関する指導・支援について
- ・一人一人に応じた指導を考えるヒント



今後も、様々なお子さんの学びの困難さについて、皆さんとともに考えていきます。心配なこと、悩んでいることなど、何かありましたら遠慮なくご連絡ください。

#### 山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校

〒400-0601 南巨摩郡富士川町鯉沢5673-12

TEL：0556-27-0067 メール：wakafujy@kai.ed.jp

地域支援担当：保坂美智子 豊嶋千鶴 小野みゆき



ぶんこちゃん